

肉畜販売事業の 取り組みについて

畜産酪農部



本県における「牛肉消費拡大推進」は昭和49年に始まりました。当時は石油危機（オイルショック）を起因とする物価上昇の影響から、嗜好品である牛肉の消費は他の食材に比べ大きく減少し、肉牛のみならず子牛価格も下落する事態が発生しました。また本県の牛肉消費量は全国水準を大きく下回っていたことから、牛肉の県内消費拡大を目的として、昭和49年に岩手県・岩手県農協中央会・岩手県経済連・(株)岩手畜産流通センター等を構成員とする「岩手県食肉消費拡大推進協議会」が発足しました。同協議会では、県産牛肉取扱店への看板交付、媒体を駆使した広報活動の強化、積極的なイベント・キャンペーン展開に取り組み、「いわて牛」を中心とする「岩手県産牛肉」の訴求強化・認知度向上・消費拡大に取り組みました。

昭和50年代中頃には、国内経済の回復にともない、食肉需要は増加傾向に転じました。また黒毛和種の品種改良や肥育技術の向上により高品質な銘柄牛生産が活発となり、産地間競争が激しさを増してきました。本県でも地域毎の銘柄化が進み、東京食肉市場で開催さ

本県の肉畜の飼養頭数は、肉牛の飼養頭数90,700頭（全国5位）、戸数4,560戸（全国3位）、養豚の飼養頭数420,700頭（全国7位）、戸数110戸（全国12位）であり、九州、北海道等に続き全国でも上位に位置づけられています。また、肉牛も黒毛和種他、地方特定品種の日本短角種や、肉豚でも黒豚などが飼育されています。この特性を活かし、地域あるいは品種毎に銘柄化をすすめる、有利販売に取り組みんでいます。

1. 県産牛肉の消費拡大促進の取り組みと「いわて牛」



1個丸ごとロールキャベツ

料理監修/高橋ヒサ子
管理栄養士・いわて糖尿病療養指導士

- ♥材料(4人分)
- 小さなキャベツ…1個
 - A (牛豚合挽き肉…200g、玉ねぎ…1個、にんじん…1/4本、ピーマン…1/2個、牛乳・パン粉・卵・塩・こしょう・ナツメグ…適量)
 - コンソメ…適量

- ♥作り方
- ①玉ねぎ、にんじん、ピーマンはみじん切りにし、合挽き肉・牛乳・パン粉・卵と一緒に混ぜ合わせたら、塩・こしょう・ナツメグで味を整えておく。
 - ②キャベツの中をくり抜き、蒸す。
 - ③蒸し上がったキャベツの中に①を詰め、コンソメで煮る。

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスperanto語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

純情産地発 **KLARA** vol.842 2019 9
クララ



contents

Let's try cooking	02	みのるinfo	07
特集		みんなの分教場	08
肉畜販売事業の取り組みについて	03	純情むすめ活動記	09
イベント情報	06	純情人	09
消費地だより	07	ニュースワイドアングル	10

販売事業を展開するに当たり、定時定量・安定品質は不可欠であることから、肥育牛・養豚に係る生産基盤対策を実施し、継続的な肉畜生産基盤の支援に取り

②産肉能力③肉質に優れています。実需者への販売が明確に結びついた「産直事業」については、昭和50年より取り組みを開始し、現在では主要12銘柄、126千頭の規模に拡大しました。平成20年度からは「休耕田の利活用」と「国産飼料自給率の向上」を目的とし、肥育豚に「県産飼料用米」を給餌する耕畜連携した産直事業に取り組んでいます。

3. 生産基盤対策について



IBCまつりに出店した岩手県農協養豚経営者連絡協議会による豚肉試食販売ブース(H30)



岩手県農協肉牛経営者連絡協議会によるいわて牛無料試食会(R1)

【令和元年度 生産基盤対策事業】

事業名	事業内容	対象頭数	期間	対象者
黒毛和種肥育生産基盤拡大導入対策事業	経営規模拡大を図る意欲ある農業者の肥育素牛導入対策として@100,000/頭	150頭	令和元年度 4月～3月	県本部経由で肉牛出荷している農協(又は営農センター)管内の45歳以下の後継者又は45歳以下の生産者
和牛一貫経営・繁殖牛緊急増頭対策事業	肥育経営安定化の一助となる一貫体系への移行に伴う繁殖牛の導入・増頭対策とし@100,000/頭	50頭	令和元年度 4月～2月	農協長の推薦する系統事業に理解のある和牛肥育農家・法人
優良種雌豚導入対策	高品質肉豚生産のために導入するハイコブSPF豚等の対策として@20,000円/頭	150頭/農場	令和元年度 4月～3月	岩手県農協養豚経営者連絡協議会会員
高品質豚肉安定生産対策	豚枝肉中格付け以上の肉豚の安定出荷対策として衛生費の一部相当として@150円/頭		令和元年度 4月～3月	岩手県農協養豚経営者連絡協議会会員

【令和元年度 肉牛販売対策事業】

事業名	事業内容	期間	対象者
和牛肥育部会販売対策事業	JA肥育部会が実施する販促資材作成や販売対策等に係る費用の1/2助成	令和元年度 4月～3月	県本部経由で肉牛出荷している農協(又は営農センター)肥育部会

た。一方で、昭和46年には豚肉の輸入自由化が実施され、国産豚肉の需要は低迷し、廃業する養豚農家が続出しました。このような生産流通情勢を踏まえ、当時の岩手県経済連は、養豚の生き残る方向性として「高品質豚肉生産」を戦略として打ち出しました。昭和47年4月に「中央種豚場」を建設し産肉能力に優れた種豚の生産に取り組みしました。また、平成4年には「種豚センター」と改称し施設を新設し、肉豚生産に影響する特定疾病を除いた「清浄種豚」の生産供給を開始しました。平成13年度に当該業務は、全農畜産サービス(株)に集約移管され、全農グループが独自に育種開発した「ハイコブSPF豚」を中心に飼養されています。SPF豚とは「特定の病原菌を持たない豚」を意味し、①繁殖能力

組んでいます。また、今年度より肉牛の有利販売を目的に、農協肉牛肥育部会等で実施する販売対策を支援致しています。

4. おわりに

今年度は銘柄毎あるいは産直毎の販売促進活動に加え、10月19日～20日に開催される「東京食肉市場祭り」に、「いわて牛普及推進協議会」として平成23年度以来8年ぶりに参加します。また、9月にはラグビーワールドカップが釜石市で開催されるなど、本県産の牛肉・豚肉を紹介し消費拡大へつなげる絶好の機会と位置付け、各種PRイベントを強化します。今後とも肉畜販売事業の取り組みに對しましてご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

【家畜飼養頭数】 平成30年2月1日調査(下段:前年) (単位:戸、頭)

畜種	区分	戸数	全国順位	頭数	全国順位	1戸当たり頭数		全国順位
						岩手県	全国	
乳牛		935	2	41,900	4	44.8	84.6	37
		963	2	42,500	3	44.1	80.7	36
肉用牛		4,560	3	90,700	5	19.9	52.0	47
		4,780	3	91,800	5	19.2	49.9	47
養豚		110	12	420,700	7	3,824.5	2,055.7	5
		112	12	437,000	7	3,901.8	2,001.3	3

※農林水産省「畜産統計」

【本会肉畜取扱計画ならびに実績】 (単位:頭)

畜種	区分	令和元年度計画	平成30年度実績	平成29年度実績	平成28年度実績	平成27年度実績
黒毛和種		6,100	6,220	5,743	6,006	5,473
短角肉牛		500	524	510	505	576
その他肉牛		4,000	4,399	4,139	3,964	5,426
乳用種		1,700	2,064	2,560	4,194	5,217
交雑種		1,300	1,330	1,612	1,830	1,619
小計		13,600	14,537	14,564	16,499	18,311
肉豚		306,000	273,756	275,426	276,882	273,849

【年度別牛肉輸出実績】 (単位:kg)

品種	区分	輸出国	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
			数量	シェア	数量	シェア	数量	シェア
黒毛和種		シンガポール	2,837	6.6%	3,977	10.2%	2,084	8.5%
		香港	18,232	42.4%	13,680	35.0%	13,205	54.1%
		アメリカ	13,568	31.5%	14,329	36.7%	9,028	37.0%
		カナダ	4,614	10.7%	4,290	11.0%		0.0%
		タイ	1,637	3.8%	22	0.1%		0.0%
		ニュージーランド		0.0%	38	0.1%		0.0%
		ベトナム	411	1.0%		0.0%	103	0.4%
		台湾	1,273	3.0%	2,460	6.3%		0.0%
		マカオ		0.0%	244	0.6%		0.0%
		メキシコ	477	1.1%		0.0%		0.0%
	計	43,048	100.0%	39,038	100.0%	24,419	100.0%	
交雑種		シンガポール	1,150	19.4%	1,580	27.6%	1,176	22.6%
		香港	1,652	27.8%	2,142	37.4%	2,619	50.4%
		アメリカ	93	1.6%		0.0%	193	3.7%
		カナダ	233	3.9%	176	3.1%		0.0%
		タイ	866	14.6%	187	3.3%	153	2.9%
		ニュージーランド	705	11.9%	893	15.6%	1,061	20.4%
		ベトナム		0.0%		0.0%		0.0%
		台湾	852	14.4%	684	11.9%		0.0%
		マカオ		0.0%	72	1.3%		0.0%
		メキシコ	382	6.4%		0.0%		0.0%
	計	5,933	100.0%	5,734	100.0%	5,202	100.0%	
計		シンガポール	3,987	8.1%	5,557	12.4%	3,259	11.0%
		香港	19,884	40.6%	15,823	35.3%	15,824	53.4%
		アメリカ	13,661	27.9%	14,329	32.0%	9,221	31.1%
		カナダ	4,847	9.9%	4,465	10.0%		0.0%
		タイ	2,503	5.1%	209	0.5%	153	0.5%
		ニュージーランド	705	1.4%	931	2.1%	1,061	3.6%
		ベトナム	411	0.8%		0.0%	103	0.3%
		台湾	2,125	4.3%	3,143	7.0%		0.0%
		マカオ		0.0%	316	0.0%		0.0%
		メキシコ	859	1.8%		0.0%		0.0%
	計	48,981	100.0%	44,772	100.0%	29,621	100.0%	

※本会調査

れる全国肉用牛枝肉共励会において名誉賞を受賞するなど全国でも有数の産地として認知されました。このような環境変化を踏まえ、従来の「県内」を中心とした消費拡大推進に加え、「消費地」における「いわて牛」の認知度向上・需要拡大を実現するため、平成27年7月に「いわて牛普及推進協議会」が発足し、首都圏における広報宣伝活動に継続的に取り組んでいます。平成24年8月から盛岡駅渚の前広場で「いわて牛」無料試食会を

生産者・農協他関係機関協力のもと毎年開催し、県外帰省客や県内生活者に「いわて牛」の美味しさをPRしています。「いわて牛」に代表される「岩手県産牛肉」の販売力強化に資する取り組みは国内だけでなく、海外市場も視野に入れ取り組みを強化しています。平成3年4月の牛肉自由化の影響による県産牛肉の国内需要減少リスクを緩和するため、平成21年に輸出用食肉加工施設として認定された(株)岩

2. 県産豚肉の産地提携事業の取り組み

本県における豚の飼養頭数は、昭和40年代の飼料価格が低位安定化することと連動し、稲作と複合経営する小規模農場を担い手として拡大し、手畜産流通センターを拠点として輸出事業を強化しています。平成30年度は、香港アメリカカナダ・シンガポールを中心に約49トン輸出しました。



岩手県産米フェア時の売り場の様子



イベントでの「金色の風」、「銀河のしずく」試食の様子

現在、元年産米いわて純情米について、各卸様、実需者様から多くの要望をいただいております。元年産米については、既に事前契約を締結しており、卸様、実需者様と結びついた販売を進めております。安定した品質のお米を安定供給していくことが販売先からの信頼および岩手県産米の評価向上に繋がってまいります。生産者の皆様方には、農協、全農県本部への出荷をよろしく願います。

「令和元年度産いわて純情米」の販売拡大に向けて
 新元号となり初めての「令和元年産米」のスタート時期となりました。南九州の鹿児島、宮崎、四国の高知などから早期米の出荷が始まっておりますが、今年6月下旬以降の日照不足の影響が心配されております。愛知県内でも7月は日照が少なく、梅雨明けも例年より遅かったため、新米の出荷は例年より遅れる見通しです。本県の生育状況についての問い合わせも多く、「いわて純情米」に対する期待の高さが伺えます。

では、消費者からの信頼も厚く固定客も多いため、安定して販売いただいております。また、新品種の「銀河のしずく」、「金色の風」については、主要卸とともに販売先に向けた商談を行っており、イベントや店頭での試食等を通じて、消費者への認知度向上を図っております。試食いただいた消費者からは、「甘みがあったおいしい」、「粒がしっかりしている」など好評価をいただいております。各産地から良食味新品種がデビューしているなかで、岩手のお米が選ばれるよう、関係機関と連携しながら取組みを進めてまいります。名古屋地区でも量販店でのキャンペーンや販促を実施予定です。

消費地だより

純情ブランド消費地の「今」をレポートします。
消費地販売部 発



消費地販売課 佐藤 大介

いわて純情野菜がいっぱい! 「いわて純情野菜フェア」開催中!

【期間】9月中旬まで

純情産地いわての店「みのるダイニング」では、「いわて純情野菜フェア」を開催しています。夏野菜の旬の時期を迎えた今、いわて純情野菜のおいしさを皆さんにお届けします。フェア期間中、みのるダイニングでご提供する野菜は、県内JA管内で栽培されたものを中心に使用します。

是非、この機会にいわて純情野菜のおいしさをご賞味ください。

1. 付け合せ野菜の増量
 各種定食 選べるプレート ビーフコンビーニョングリル

2. 「いわて純情野菜」を中心にご提供
 コンビーニョングリル サバーニャウダ

「いわて純情野菜フェア」

- サニーレタス (JA新いわて)
- リーフレタス (JA新いわて)
- いわて春みどりキャベツ (JA新いわて)
- ズッキーニ (JAいわて中央)
- きゅうり (JAいわて花巻)
- ピーマン (JA岩手ふるさと)
- トマト (JA江刺)
- なす (JAいわて平泉)
- 中玉トマトフルティカ (JAおおふなど)



毎月行われる イベントを 紹介します!

Monthly Event Introduction

9月開催予定イベント

8月1日~9月中旬	管理部	純情産地いわての店「みのるダイニング」いわて純情野菜フェア
9月2日~6日	園芸部	岩手県産花き展示フェア(彼岸向け)
9月6日~7日	園芸部	いわてフラワーコンテスト2019
9月9日~10日	畜産酪農部	岩手県農協肉牛枝肉研究会
9月10日	総合エネルギー部	第43回いわてJA-SSドライブウェイサービスコンテスト
9月14日~15日	畜産酪農部	IBCまつり2019出展「岩手県農協養豚経営者連絡協議会豚肉試食会」
9月26日~27日	畜産酪農部	令和元年度東京食肉市場まつり記念「いわて牛枝肉共励会」
9月30日	米穀部	金色の風収穫会

スケジュールは変更になる場合があります

いわてフラワーコンテスト2019

園芸部花き・資材課

【日時】9月6日(金)~7日(土)
 【開催場所】盛岡市観光文化交流センター「プラザおでって」

盛岡市観光文化交流センター プラザおでってにて「いわてフラワーコンテスト2019」が開催されます。県内花き生産者の技術向上と生産意欲の高揚を図るとともに、県内外への更なる県産花き需要の拡大を目的としたこのコンテストは、今年度で38回目。

1日目に審査、2日目に一般公開および販売会を実施します。一般公開は9月7日9時30分から10時30分まで、販売は同日10時30分から15時までの予定となっております。岩手県が全国1位の生産量を誇るりんどうや、同じく県内主力品目の小菊など約170点が出品される予定です。

鮮やかな岩手県産の花きをぜひご覧ください。



色とりどりの花が出品・販売されます



生産者の思いが詰まった花を審査します

IBCまつり2019出展 岩手県農協養豚経営者連絡協議会 豚肉試食会

畜産酪農部

【日時】9月14日(土)~15日(日)
 【開催場所】岩手産業文化センター「アピオ」

岩手県農協養豚経営者連絡協議会とJA全農いわては、9月14日(土)~9月15日(日)に行われる「IBCまつり2019」にて「いわて純情豚」の試食販売を行います。

この取り組みは、岩手県産豚肉の更なる消費拡大をはかるため、毎年行われている取り組み。IBCまつりの来場者に向けて岩手県産豚肉の消費を呼びかけます。毎年、「いわて純情豚」のおいしさを求めて行列ができるほど多くのお客様で賑わう人気イベントです。

会場では「いわて純情豚」の焼き肉の無料試食を実施!先着400名/日のお客様が無料で「いわて純情豚」のおいしさを味わえます。さらに、いわて純情豚を使用したお弁当の販売も行う予定です。会場で行われるアンケートの回答者には、豪華賞品が当たる抽選会もございます。

会場でお待ちしております!



今年も「2019いわて純情むすめ」が豚肉の配布を行います!



その場で焼く「いわて純情豚」。焼きたてのおいしさをご堪能ください



ご来場をお待ちしております!

優良な種子の確保について



宮農支援部 宮農技術課
技術主管
小菅 裕明

本会の重点施策「農家手取り最大化プロジェクト」の取り組みから今回は、水稲栽培の基本と言える「優良種子」に触れます。

◆健全な種子の確保が基本
近年、多様な品種が各地で作付されていますが、中には発芽苗立ちが悪い、ばか苗病の多発ほ場が見られます。

従来、JA組合員の皆さんが購入する水稲種子は、採種において徹底した管理により生産された健全な種籾(種子)が供給されますが、上記の症状が見られる場合、その入手先の種子に起因すると考えられます。現在、水稲種子を生産・販売する種苗業者(国に登録)は、その生産にあたり遵守すべき基準が定められており、特に、



写真① 発芽・苗立ちが悪いほ場(H30年産) 写真② ばか苗病の多発ほ場(R元年産)

品種の純度の確保(異種株・変異株等の除去)や種子伝染性(ばか苗病等)の病害防除の徹底、発芽率の確保に向けた乾燥温度の遵守など、きめ細かな採種作業の結果、種子生産ほ場・生産物検査等に合格した種子が販売されます。また、その販売にあたり表示項目も別枠のとおり定められています。そのため、種子を注文・購入した際には、表示の確認が大切です。

◆広域流通品種が増加
平成29年の「種苗法」改正と、これまでの主要農作物種子法の廃止などによって、民間企業との連携による種子の開発・供給が推進され、近年、(独)農研機構や民間育成による、広域流通品種が増加しています。

◆種子消毒等対応の徹底を
広域流通品種は、育成者と品種利用許諾契約を結ぶ農業法人企業等によって、全国各地で生産されています。そのため、その種子生産ほ場の環境(ばか苗病の感染・発生状況等)情報は、入手が困難です。無消毒種子を購入した際には、種子伝染性病(ばか苗病や細菌病等)の消毒を徹底する必要があります。また、発芽率は販売上90%以上となっていますが、個別には設備がないため確認出来ませんので、薄播きや疎植等によるリスクは避けるようにしましょう。

◆優良種子の購入を
県水稲奨励品種の種子は、(一)社岩手県農産物改良種苗センター(所在地:奥州市、会員:県、市町村、全農等JAグループ)が、種子生産ほ場を管轄するJAや県機関

- 種苗法第59条に定められている指定種苗の表示項目
- ① 表示をした種苗業者名(法人は名称)及び住所
 - ② 種類及び品種(接ぎ木した果樹苗木は、種木及び台木の種類と品種)
 - ③ 生産地(国内産は都道府県名、外国産は国名)
 - ④ 種子については、採種年月又は有効期限及び発芽率

の指導を受けながら、生産・供給しています。また、それ以外の広域流通品種についても、JAの注文に基づき、生産する当該県の採種ほ場種子の購入・販売を行っています(萌えみのり、みなゆたか、ミルキークインなど)。今後、産地の信頼の確保や安定生産には、信頼できる種子の購入先を見極めることも重要となっています。

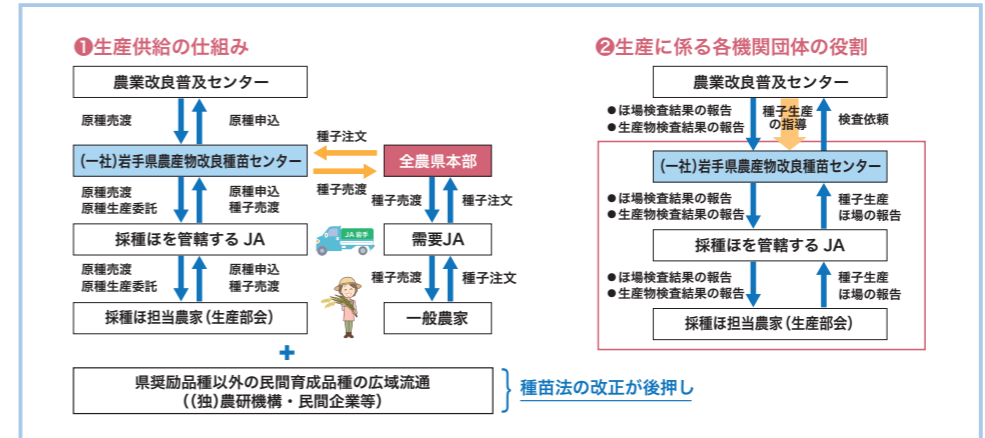


図 (一)社岩手県農産物改良種苗センターの提供、一部加筆



*「夏を彩る風物詩」
盛岡の夏といえば「さんさ踊り」！私たちが「2019いわて純情むすめ」は、8月2日(金)、JA岩手県五連のさんさ踊りパレードに踊り子として参加しました。

人生初のさんさ踊り。盛岡に住んでいる方なら小さい頃から触れ合う機会が多いさんさ踊りですが、私は滝沢市の出身で、残念ながらこれまで一度もさんさ踊りに参加したことはありませんでした。高校卒業後から盛岡での暮らしを始め、「せっかくなので盛岡にいますから踊れるようになりたいなあ」と思うことがありました。元々リズム感が無いこともあり、きつと上手く踊れないだろうといつも諦めてしまっていました。



そんな中、「2019いわて純情むすめ」に選ばれ、JA岩手県五連の先頭で踊るといって、本当に踊れるだろうかという不安でいっぱいになりました。そんな中スタートした踊りの練習。私以外も踊った経験がないメンバーが多く、練習の回数もそれほど取れないスケジュールでしたが、講師の先生の熱心な指導のおかげで少しずつ全員が上達していきまし



しかし、手の振り、歩幅、視線など5人で合わせなければならぬ部分も多く、私はなかなか自信を持って踊れないでいました。そんな私に勇気くれたのは、本番も迫ったある日の練習後、先生が仰った言葉でした。



2019いわて純情むすめ
菊池 彩女

「純情むすめとして先頭で踊れるのは一生に一度のこと」
純情むすめの任期は一年。来年また頑張ろうと思っても、もう二度とこのメンバーで踊ることはいないんだと実感すると、自信のない踊りを見せるわけにはいかないと思いました。それからの練習では、自信の無さを改善するべく不安な部分は先生に直していただき、笑顔を絶やさず望々と踊ることを心掛けました。

本番当日、いざパレードが始まると緊張よりも楽しさが勝り、沿道のお客様に笑顔で応えることができました。沿道からの声援に励まされ、気付いた時には終わり間近、誰一人欠けることなく踊りきり、達成感の笑顔でフィナーレを迎えました。

JA全農いわての純情人

じゅん じょう びと

●趣味・特技

プロ・アマ問わず野球観戦が趣味です。
特技はバドミントンです。小学校4年生から大学4年生までバドミントンをしていました。

●現在の担当業務

家畜市場課 和牛登録室に配属され、子牛登記書(牛の戸籍)を作る業務を行っています。勉強不足で至らないところが多いですが、これから頑張っていきたいと思

●これからどんな職員になってみたいか

消費者と生産者をつなぐ架け橋になれるように、どちらからも頼られる存在になりたいと思

●その他アピール

まだまだ至らないことが多いと思いますが、これから宜しくお願い



家畜市場課 和牛登録室
くらなり たかひと
倉成 孝人さん



●大盛況! いわて牛のおいしさをPR

令和元年8月10日(土)

いわて牛無料試食会

JA全農いわては、岩手県農協肉牛経営者連絡協議会と協同し、8月10日(土)盛岡駅前の広場に「いわて牛無料試食会」を実施しました。

「いわて牛無料試食会」は、いわて牛の普及と消費拡大を目的として、平成24年から開始され、毎年行われている取り組みです。生産者がスタッフとして参加し、自らいわて牛のおいしさをPRすることが特徴です。

8年目となる今年は、1500食分のいわて牛に加え、1000本の県産牛乳と600本の県産きゅうりも同時に無料配布を行いました。また、IBCラジオ「水越かおるのすっぴん土曜日」の公開放送とタイアップし、現地からの様子をレポート。更なるPRを図りました。

ラジオの効果もあり、会場は大盛況! 試食会開始前から長蛇の列ができ、開始からわずか2時間ほどですべての無料試食が終了しました。お盆の時期に駅前で無料試食会を開催することで、県内の方だけでなく、帰省された方、観光に来られた県外の方など、多くの方々に県産農畜産物のおいしさを知ってもらった絶好の機会となりました。

ご来場いただいた方々は「おいしい!」「無料で食べられるなんて贅沢」と県産農畜産物のおいしさを絶賛していました。



2019いわて純情むすめが牛肉の配布を行いました



たくさんのご来場ありがとうございました!

●県産農畜産物で地域振興に貢献!

令和元年7月15日(月)

JA全農いわて協賛ジャパンジョッキーズカップ2019

7月15日(月)、JA全農いわてが協賛する「ジャパンジョッキーズカップ2019」が盛岡競馬場で開催されました。多くの来場者で賑わった当日の会場では、先着400名限定の来場者プレゼント(リンゴジュースと全農ミルク飴)の配布と「いわて純情米の店 銀河食堂」のお弁当販売を行いました。限定60食で販売した銀河食堂のお弁当は、販売開始から10分も経たずに完売! 多くの方にお買い求めいただきました。

「JA全農いわて協賛ジャパンジョッキーズカップ」ではTeamJRA4名、TeamEAST(東日本地方競馬チーム)4名、TeamWEST(西日本地方競馬チーム)4名の計3チーム12名による、チーム優勝・優秀騎手賞を賭けた3つのレースが行われました。白熱したレースの結果、優勝チームはTeamWEST! 個人でもTeamWESTの佐藤友則選手が見事優秀騎手賞を獲得しました。優勝チームと優勝騎手、優勝馬関係者には本会高橋司副本部長から副賞として岩手県産農畜産物が贈呈されました。優秀騎手賞を獲得したTeamWESTの佐藤友則選手は、副賞として贈呈された「いわて純情豚 1頭分」を、佐藤選手の所属する笠松競馬場で来場者にふるまう予定です。

JA全農いわては、県産農畜産物の提供を通じ、地域の賑わい創りと活性化に今後も貢献していきます。



表彰式で副賞を受け取ったTeamWESTの佐藤友則選手ら



編集
後記

畠山に代わり、9月号から「クララ」の編集・取りまとめを担当することになりました、総合企画課の毛塚と申します。早いもので入会から約5か月が経ちますが、まだまだ分からないことだらけで日々勉強の毎日です。

JA全農いわての広報担当として、「純情産地いわて」の魅力をお伝えすることはもちろん、読者の皆

様に少しでも楽しんでいただけるような紙面づくりをしていきたいと思っています。至らない点が多いとは思いますが、ご指導をいただければ幸いです。いろいろな場所に出向き、まずは「広報担当の毛塚」として皆様に顔を覚えて頂けるよう頑張ります! これから宜しくお願致します!

(毛塚)

●野菜の季節が到来! 夏にぴったりの県産野菜を消費地へ

令和元年7月27日(土)

東京都大田市場でのいわて純情野菜トップセールス

7月27日(土)岩手県とJAいわてグループは東京都中央卸売市場大田市場で、「いわて純情野菜」のトップセールスを実施しました。県産のきゅうりやレタス、ミニトマトの試食を提供し、最盛期を迎える岩手県産野菜を買参人へPRしました。

当日はピーマン、きゃべつ、きゅうりや生しいたけなど夏野菜12品目を展示。試食用としてドレッシングと合えたキャベツ「いわて春みどり」やミニトマト、レタスなどを提供し、実際に試食した買参人は「みずみずしくて美味しい」と大きく頷いていました。

JA岩手五連会長の久保憲雄会長は「今年はラグビーワールドカップ、来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本全体の気運が高まっている。その勢いにのせ、いわて純情野菜を消費者の皆様にPRしたい。」と販売拡大への意気込みを語りました。

今年度の主な野菜の出荷計画は、キュウリ9,100トン、キャベツ21,000トン、ピーマン6,000トンの出荷を計画しています。



トップセールスを行う保和衛副知事・久保憲雄JA岩手県五連会長と関係者ら

●農家手取り拡大に向けて。県産りんごの販売強化を協議

令和元年7月29日(月)

令和元年度いわて純情りんご販売対策会議

JA全農いわては29日(月)、花巻市内のホテルで「令和元年度いわて純情りんご販売対策会議」を開催しました。8月中旬ごろから本格的に始まる予定の「いわて純情りんご」の出荷の前に、青果会社・JA・関係機関を参集し販売対策について協議し、意識統一をはかりました。会議には全国の青果会社13社と県内7JAの担当者ら計45名が出席しました。

「いわて純情りんご」の前年度の販売数量は101.2万ケース/10kg(前年比102%)、3年ぶりに100万ケースの大台を突破し、今年度も昨年と同様の好調な売り上げ実績を継続・拡大できるかが鍵となります。会議では県内7JAが今年度のいわて純情りんごの生育状況と販売拡大への方針を報告し、青果会社13社と販売強化に向けた取り組み内容を共有しました。

会議に出席した本会高橋司副本部長は「農家手取りを1円でも多くするため、昨年よりも向上心を持って販売促進活動に努めることが必要。レギュラー品種の売り上げ強化に加え、県オリジナル品種の更なるブランドイメージの確立を目指す。」と県産りんごの販売拡大への熱意を語りました。

8月中旬ごろから、岩手県のオリジナル品種である「紅口マン」「紅いわて」「はるか」を始め、「きおう」「つがる」「ジョナゴールド」「シナゴールド」など多品種のりんごが市場に出回っています。JAいわてグループは、それぞれのりんごの特徴を生かした複合的な販売戦略によって、「いわて純情りんご」としてのブランドイメージ向上に取り組んでいます。



販売対策会議の様子

●一関から全国の「ファン」へ農畜産物をお届け

令和元年8月1日(木)

一関ふるさと便「夏の便」出発式

一関市とJAいわて平泉からなる一関ふるさと便事業実行委員会は、JAいわて平泉西部営農振興センター前で「一関ふるさと便「夏の便」」出発式を開催しました。

一関ふるさと便は、一関の農畜産物のPRと産地拡大を図るため昭和62年から始められた取り組み。毎年夏と冬の2回実施され、一関管内の生産者が作った農畜産物が、全国各地の「ファン」の元へと届けられます。

33年目となる今年の「夏の便」は、「須川高原りんどう」「ピンクりんどう」「青褐色りんどう」「りんごジュース」「とまとジュース」の5種類。

出発式には関係者ら40名が出席し、テープカットやジュースによる乾杯、トラック運転手への花束贈呈の後、「夏の便」を積んだトラックを見送りました。

実行委員会会長である勝部修一関市長に代わり出席した一関市農林部中川文志部長は、「一関の農産物と共に、県外の方々に一関市の魅力を届けられれば。」と農業を通じた地域振興への思いを語りました。



ふるさと便の出発を祝う関係者ら



2019いわて純情むすめから佐川急便の運転手へ花束が贈呈されました



桂文珍

三遊亭円楽

令和元年 **12月9日月**
 【開場】17時30分 【開演】18時30分(予定)



岩手県民会館 大ホール

入場料金 S席 前売券 3,800円 A席 前売券 3,000円
 [全席指定] (当日券 4,500円) (当日券 3,500円)

※未就学児入場無料。但し、お席が必要な場合は有料です。※3歳未満のお子様のご入場は出来ません。



U字工事

チケットは10月中旬より販売(予定)

主催 **TVI** 50th テレビ岩手 協賛 **JA** ss いわてJA-SSチェーン



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
 安心で結ぶ懸け橋**
 になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
 - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
 - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

